

企画展

# MAKINO 植物の肖像

## -菅原一剛が写した牧野富太郎の標本-

令和6年4月20日(土)～6月30日(日)

練馬区立牧野記念庭園



Sendai-yoshino  
*Cerasus x yedoensis* (Matsum.) A. V. Vassil. 'Sakabai'  
Oizumi, Nerima-ku, Tokyo Pref.  
1939  
Collection of The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden  
Photograph by Ichigo Sugawara

牧野富太郎博士は、詳細で緻密な植物図を描いたことで知られ、採集した標本の多さとその美しさでも定評があります。菅原一剛氏は、博士自ら作製した標本の生命感に心動かされ、撮影を希望しました。菅原氏の思いは、「牧野標本」の美しさを、肖像写真を撮影するかのような眼差しで蘇らせたいという一念でした。世界最高水準の1億5千万画素のデジタルカメラと高度なライティング技術を駆使することによって、植物の微細な陰影を立体的に写し出された作品が誕生しました。

本展では、博士が自宅の庭で採取したサクラの標本写真をピンクプラチナプリントという特別な技法で仕上げた作品や、写真を100×150cmに拡大することによって細部まで鮮明に見ることができる作品を展示します。

あくまで科学的な資料である標本をアートの視点で紐解いた菅原氏の作品をぜひご覧ください。

### 基本情報・問い合わせ先

企画展「MAKINO 植物の肖像

-菅原一剛が写した牧野富太郎の標本-

会期：令和6年4月20日(土)～6月30日(日)【火曜休園】

時間：午前9時30分～午後4時30分

協力：MAKINO Botanical Art Project、高知県立牧野植物園、  
東京都立大学牧野標本館

入場：無料

会場：練馬区立牧野記念庭園記念館

所在地：東京都練馬区東大泉6-34-4

TEL 03-6904-6403 FAX 03-6904-6404

E-mail [makinoteien@mist.ocn.ne.jp](mailto:makinoteien@mist.ocn.ne.jp)

URL <https://www.makinoteien.jp/>

展覧会関連イベントや菅原氏プロフィールについては、チラシ裏面をご覧ください。

## 植物学者・牧野富太郎博士について

日本の植物分類学の父とされる牧野富太郎は、1862(文久2)年4月24日に高知の佐川村(現佐川町)に生まれました。幼い頃より植物に親しみ、ほぼ独学で植物を研究、東京帝国大学理科大学(現東京大学理学部)の植物学教室で助手と講師を長年務めました。生涯に発見・命名した植物は1,500種類以上、収集した標本は約40万点、研究のために収集した書籍は約4万5千冊にのぼります。また、“牧野式植物図”と呼ばれる正確な図を描いたことでも知られています。

1940(昭和15)年には代表的著作『牧野日本植物図鑑』(北隆館)を刊行しました。

1926(大正15)年に渋谷から北豊島郡大泉村(現練馬区立牧野記念庭園の所在地)に移り住み、1957(昭和32)年に満94歳で没するまでの約30年をこの地で過ごしました。

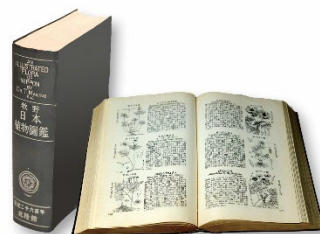


牧野富太郎、東大泉の自宅にて



牧野富太郎が原図を描いた『大日本植物志』に載るヤマザクラの図

牧野富太郎の代表的著作『牧野日本植物図鑑』北隆館、1940年



## 牧野記念庭園の紹介

牧野富太郎博士が1926(大正15)年から94歳で亡くなる1957(昭和32)年まで居住し、自らが採集してきた植物を植え、「我が植物園」として愛した住居跡を整備した庭園。牧野博士の没後、博士ゆかりの地を広く一般に開放し、博士の偉業を末永く後世に伝えようと、練馬区が1958(昭和33)年に開園しました。園内には300種類以上の草木類が生育しており、スエコザサ、サクラ‘仙台屋’、ヘラノキなど、学問的にも貴重な植物を多数見ることができます。



常設展示室では牧野富太郎博士が植物採集や研究のため愛用した道具などを展示し、研究活動や生活の様子を紹介しています。書屋展示室では書齋と書庫の一部を当時のまま保存。2023(令和5)年4月から博士が晩年過ごした様子に再現し公開しています。



### 練馬区立牧野記念庭園

開園時間：午前9時から午後5時まで  
休園日：毎週火曜日(ただし、火曜日が祝休日にあたる場合はその直後の祝休日でない日)、年末年始(12月29日～1月3日)  
入園料：無料

牧野記念庭園は東京都指定文化財(名勝および史跡)です。